大阪市立大学大学院　都市系専攻
修士論文概要集 2020 年 2 月

多機能型図書館としてのマイクロライブラリーの実態評価

EVALUATION OF MICRO-LIBRARY AS A MULTIFUNCTIONAL LIBRARY

建築計画分野　　木下　博人
Architectural Planning　　Hiroto KISHITA

近年、地域内での人の繋がりの希薄化やコミュニティの衰退が危惧されている。地域コミュニティの再生に関する活動として、地域住民・NPO 法人などによる民間図書館への主体的な取り組みが注目されている。本稿では「地域住民による自発的な取り組み」に着目し、マイクロライブラリーの実態および空間特性について分析する。さらにマイクロライブラリーの利用者による施設の空間利用実態を観察調査し、今後の図書施設計画への新たな知見を得ることを目的とする。

In recent years, there has been a fear that connections between people in the region will be diluted and communities will decline. As an activity related to the regeneration of local communities, attention has been paid to the initiative of private libraries by local residents and NPOs.This report focuses on "voluntary efforts by local residents" and analyzes the actual conditions and spatial characteristics of micro-libraries. In addition, the purpose of this study is to observe and investigate the actual use of space in the facilities by users og the micro-libraries, and to gain new knowledge on future library facility plans.

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的

日本において、図書館といえば公共図書館を想像し、固いイメージを持つが、マイクロライブラリーはこれまでの行政による公共施設整備の在り方とは対照的で、誰でも公共図書館と同様の活動ができる。組織的な取り組みも見受けられるが、中には、NPO よりも緩く、組織にならない街づくりの取り組みが各地で地域住民を中心に広がっており、こういった活動は地域社会に大きな影響を与えている。そこで本研究では、「地域住民による自発的な取り組み」に着目し、①マイクロライブラリーの実態を明らかにする。②マイクロライブラリーの空間構成を分析し、特性を見出す。③マイクロライブラリーの利用実態を観察し、新しい「本のある空間」について考察する。

以上 3 項目に注視し、マイクロライブラリー活用を通じて、地域住民と利用者が住環境をいかに構築していくのか、また今後の図書施設計画への新たな知見を得ることを目的とした。

1-2. 研究方法

2019 年 9 月から 2020 年 1 月までを調査期間とし、大阪府（171 件）・兵庫県（25 件）において、マイクロライブラリー活動を行っている施設を調査対象とした。調査方法としては、Web で 196 件の概要を把握し、その内、SNS での情報発信や本に関したイベント活動など、活動が活発であると思われる 24 件（表 1）にヒアリングを実施し、開設経緯・運営方法・書籍内容・利用者属性について調査を行った。その中からさらに、オーナーが専門的な嗜好性を持つ事例を含む 9 事例についてしつらえを分析し、その中からさらに 6 事例について利用者の行動を観察調査した。

1-3. 既往研究

マイクロライブラリーとコミュニティの形成に関する調査では、古矢千晶・鈴木毅の大阪地区におけるま

表 1　ヒアリング事例概要　24 件

名称	O-KP	O-MK	O-EH	O-TM	O-TT	O-EB	O-SM	O-SU	O-HR	O-MN	O-YH	O-SH
施設形態	飲食店	飲食店	休眠賃家	商業施設	巣箱	劇場に併設	レンタルスペース	子育て支援施設に併設	福祉施設	福祉施設	福祉施設	販売店
運営主体	個人	個人	個人	民間団体	個人	民間団体	個人	民間団体	民間団体	民間団体	民間団体	個人
所在地	大阪府	大阪府	大阪府	大阪府	大阪府	大阪府	大阪府	大阪府	大阪府	大阪府	大阪府	大阪府
名称	O-SS	O-TO	H-AR	H-CA	H-HI	H-HO	H-KA	H-KO	H-TA	H-TE	H-OK	H-RE
施設形態	販売店	販売店	飲食店	飲食店	飲食店	飲食店	飲食店	飲食店	飲食店	飲食店	ホールに併設	販売店
運営主体	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	民間団体	個人
所在地	大阪府	大阪府	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県

ちライブラリーを対象として、その実態と、ライブラリー相互の関係を分析したものや、「マイクロライブラリー」・「一箱古本市」・「ビブリオバトル」など本を用いた新しい活動に関する実態調査などが行われている。礒井純充は事例研究として、まちライブラリーを対象に、活動分析・アンケート調査を行う。結果として、まちライブラリーは組織が地域の市民と対等な関係を築く地域連携、地域コミュニケーションの場づくりとして有効であると述べている。これらの研究は「マイクロライブラリーのネットワー形成」や「ストックとしてのマイクロライブラリー」に焦点をあてており、マイクロライブラリーでの居方に焦点を当てた研究は見られない。本稿は各マイクロライブラリーの実態を調査していき、マイクロライブラリーが形成する空間を利用者がどのように活用しているのかに焦点を当てる点が特徴である。

1-4. マイクロライブラリーの位置づけ

マイクロライブラリーは法的には図書館同種施設に分類される。図書館同種施設には、家庭文庫や学級文庫・専門図書館がある。以下に本稿におけるマイクロライブラリーの位置づけをまとめた (表 2)。

表 2　本稿におけるマイクロライブラリー位置づけ

1）個人の私的蔵書を基本に、一部またはその全部を他者に開放し、閲覧提供、あるいは貸し出しを行っている。 2）図書を通じて自己表現、あるいは活動拠点の活性化を目的として活用されている。 3）運営主体が個人または小規模な団体によるものである。

2. マイクロライブラリーの実態（表 3）

2-1. 開設経緯

27 事例を対象とした開設経緯は、「本が好きで開設した｛5｝」・「他の人にも自分の本を読んでもらいたくて開設した｛1｝」・「マイクロライブラリーの活動に興味を持って開設した｛6｝」といった内発的動機付けによる経緯と「マイクロライブラリーの活動を紹介されて開設した｛8｝」・「施設の利用促進を目的として開設した｛3｝」・「地域交流を目的として開設した｛3｝」・「実験的な導入として開設した｛1｝」といった外発的動機付けによる経緯が見られた（{} 内は事例数)。外発的動機付けの方が 56%とやや大きくなった。

2-2. 運営方法

196 事例を対象とした施設形態に関してまとめたものを図 1 に示す。「コミュニティスペース」・「飲食店」・「オフィス」で半数以上を占めた。数は少ないが、「寺院」・「神社」・「美容院」といった幅広い施設形態がうかがえ、開設の容易さが顕在化していた。利用可能時間は基本的に 9 時 -17 時の間であった。居酒屋やバーにおいては開始・終了時間が遅く、日をまたぐ事例も

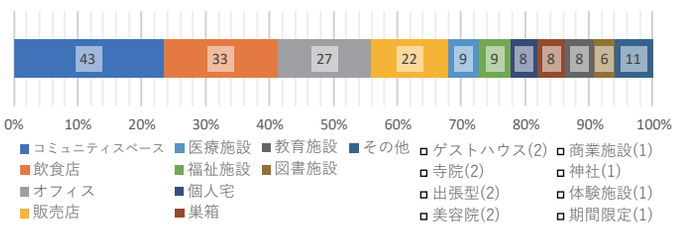


図 1　施設形態　196 事例

表 3　マイクロライブラリー概要

呼称	開設経緯	施設形態	利用可能日時	収集方法	冊数	書籍の内容	貸出	人 / 日	利用者属性
O-EB	施設の日常利用促進のため開設	劇場に併設	火～土 10:30-18:30	寄贈	4297	混合	有	35	中高生 / シニア世代 / 乳幼児連れの母親 / イベント利用者 / カフェ利用者
O-SU	施設の利用促進を図るため開設	子育て支援施設に併設	9:00-22:00	寄贈	1316	混合	無	10	小学生 / 大人（主婦層）/ 親子連れ
H-OK	商店街理事長の紹介	ホールに併設	月～金 9:30-17:00	寄贈 / 提供	26	絵本	有	2	地域住民 / イベント利用者
O-SM	他のマイクロライブラリーをみて開設	レンタルスペース	月 11:00-16:00	提供	100	暮らしと手芸 / 障がい福祉	有	15	知人 / 地域住民
H-KA	岡本商店街振興組合の紹介	カフェ	月～土 9:30-22:00	寄贈 / 提供	18	混合	有	2	店舗利用者
H-TE	岡本商店街振興組合の紹介	カフェ	11:00-21:00	寄贈 / 提供	20	混合	有	1	店舗利用者
H-TA	本が好きで開設	カフェ	11:30-19:30	寄贈 / 提供	13	イギリス紅茶	有	1	店舗利用者 / イベント利用者
H-AR	イベントを通じて開設	bar	月～土 18:00-24:00	寄贈 / 提供	182	音楽	有	1	店舗利用者 / イベント利用者
O-KP	本が好きで開設	bar	17:30-25:00	寄贈 / 提供	300	お酒	有	2	店舗利用者 / 店員
H-KO	岡本商店街振興組合の紹介	そば屋	15:00-20:30	寄贈 / 提供	17	歴史	有	1	店舗利用者
O-MK	本が好きで開設	食堂	11:00-21:00	寄贈 / 提供	30	企業 / お金 / 健康	無	1	店舗利用者
H-CA	本が好きで開設	カフェ	月・水木金 12:00-19:00	提供	156	混合	有	1	店舗利用者
H-HI	岡本商店街振興組合の紹介	カフェ	11:30-20:00	提供	20	日本茶	有	1	店舗利用者
H-HO	本が好きで開設	カフェ	11:00-19:00	提供	930	小説	無	12	店舗利用者
O-SS	販売を行っているマンションで実際にまちライブラリーを開設するため開設	マンション	金～火 10:00-17:00	寄贈	30	混合	無	1	店舗利用者
O-TO	他のマイクロライブラリーをみて開設	石材	常時	寄贈 / 提供	51	仏教 / 仏像 / 植物 / 墓 / 石	有	1	店舗利用者 / 地域住民
H-RE	岡本商店街振興組合の紹介	チョコレート	11:00-19:00	寄贈 / 提供	153	チョコレート	無	1	店舗利用者
O-SH	他のマイクロライブラリーをみて開設	自然素材	月～土 12:00-17:00	寄贈 / 提供	171	混合	有	3	店舗利用者
O-MN	指定管理業者からの提案で開設	福祉施設	9:00-22:00	寄贈	740	混合	有	5	小学生 / シニア世代
O-HR	地域住民と施設利用者との交流のきっかけづくりとして開設	福祉施設	10:00-16:00	寄贈 / 提供	1600	福祉	有	5	施設利用者 / 施設職員 / 地域住民
O-YH	本を他の人と共有したいと思い開設	福祉施設	平日 8:0017:00	寄贈 / 提供	200	福祉	有	3	施設利用者
O-EH	東大阪市文化創造館サポーター募集を機に開設	休眠賃家	日曜 10:00-15:00	寄贈 / 提供	200	絵本 / 美術書	有	5	長屋の利用者 / 親子連れ
O-TT	ホームスクールでの最初のプロジェクトが巣箱型ライブラリー作りだったため開設	巣箱	常時	寄贈 / 提供	180	絵本 / ニーズによる	有	3	幼児と保護者 / 小学生
O-TM	地域に開かれた商業施設を目指して開設	商業施設	水～月 11:00-20:00	寄贈	14000	混合	有	350	地域住民（特に主婦層）/ イベント利用者 / カフェ利用者

見られるなど、施設形態に沿った活動時間となっていた。「巣箱」では 24 時間いつでも誰でも利用可能であった。

2-3. 書籍（図 2）

書籍の収集方法は 24 事例中「寄贈のみ（30%）」・「寄贈と提供（56%）」・「提供のみ（14%）」となった。開設当時は寄贈された本で運営しており、続けるうちにオーナーの嗜好性を反映するように自分の本を置くようになったケースが見られた。蔵書数としては数十冊から最大で 14,000 冊と、幅があった (図 2)。書籍内容としては、施設ごとに単一内容または複数の内容を擁していた。「飲食店」・「販売店」は単一内容の場合が多く、オーナーの嗜好性が反映され、業種内容に沿った専門書が配備されていた。寄贈された本のみで書籍が構成されている場合に複数内容のケースが多く見られた。そして、多くの事例（85%）が貸し出しを行っており、蔵書数における「寄贈」の割合が多い場合や、遺品といった私的な書籍内容の場合、貸し出しを行っていなかった。

2-4. 利用者属性

利用者属性は施設形態ごとに「知人」・「施設利用者」・「地域住民」・「イベント利用者」と範囲が異なっていた。「飲食店」と異なり、「販売店」では本を読むだけの利用が可能であった。[O-TM] ではカフェに併設されたマイクロライブラリーであるが、カフェ利用がなくても本を読むことができるなど、採算を度外視したマイクロライブラリー活動を行っていた。

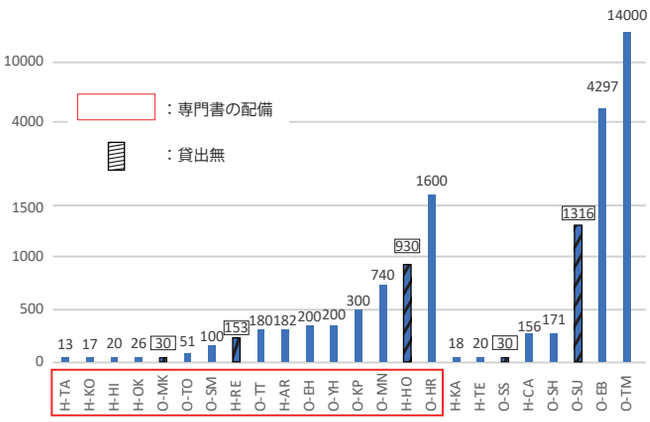


図 2　蔵書数　専門書　貸し出しの有無　24 事例

3. マイクロライブラリーの空間特性

3-1. 配架の特性

書籍の配架と施設機能との位置関係を（i）共有しているケース、（ii）隣接しているケース、（iii）分離しているケースの３つに大きく分類した（図３）。

（ｉ）共有タイプ：マイクロライブラリーの機能と施設機能が同じ空間を共有している。「飲食店」・「販売店」に見られ、空きスペースや商品と同じように本棚を設置し書籍を配架することで書籍と商品を相互に行き来しながら購買することができる。

（ii）隣接タイプ：マイクロライブラリーの機能と施設機能が隣り合っており、目的の異なる利用者が共存している。基本的に機能は分かれているため、利用者同士が直接的に関わり合うことはあまりない。

（iii）分離タイプ：マイクロライブラリーの機能と施設機能とが離れている。マイクロライブラリーを無料で利用できるため、地域住民同士の交流が盛んである。

その他に、書籍の並べ方として、①位置を意識した配架方法、②内容を意識した配架方法、③面をみせることを意識した配架方法の３つの特徴が見られた。

①位置を意識した配架：「福祉施設」・「コミュニティスペース」では車椅子利用者の手に届く位置や、子どもの目線に応じた位置に配架していた。「飲食店」・「販売店」では、カウンターや入り口付近といった、店舗利用者がすぐ目に入り、すぐ手に届く位置に配架していた。利用者のスケールに合わせ、書籍位置を意識した書籍の配架を行っており、利用者に対する細やかな気遣いがうかがえた。

②内容を意識した配架：「多世代利用」の場合や、「蔵書数が多い」場合、キッズコーナーの設置や新着本コーナーを設置するなど、書籍を内容ごとに配架し、オーナーは利用者が求めている書籍に迅速にアプローチで

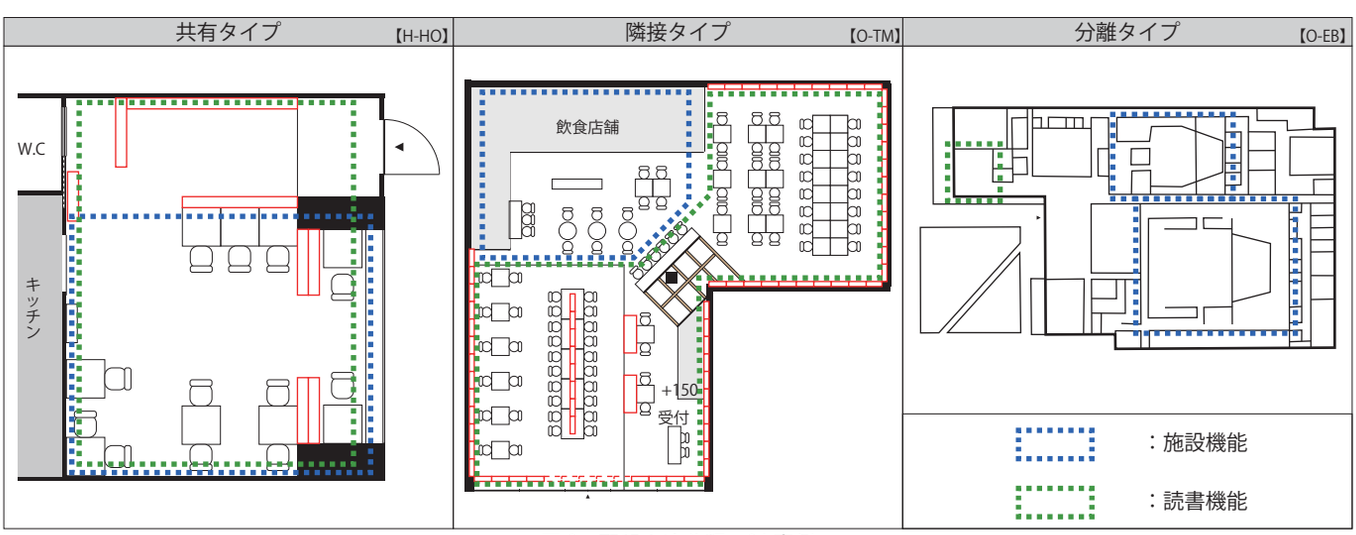


図 3　配架方法分類　24 事例

きることを意識していた。

③面を見せることを意識した配架：子ども達が自分で好きな絵本に届くように配架することをオーナーが意識した場合、背表紙ではなく、面（タイトル）をみせる配架を行う。狭いスペースながらもできる限り面をみせる配架を行うことで、本の内容や雰囲気がすぐに受け手に伝達する。

その他に、[O-TM] では定期的な利用者・サポーター・オーナーの話し合いにより、書籍の内容や配架方法を決定しており、利用者のニーズに合わせたものとなっていた。

3-2 施設形態に応じたしつらえの特性（図４）

施設形態ごとに、(1) 机や椅子に加え、ゆったりとした 1 人用の椅子やベンチソファなどよりくつろげるしつらえや、(2) 畳・襖・障子・縁側などの書院造のしつらえ、(3) 机や椅子のしつらえがないものなど多岐にわたっていた。オーナーの嗜好性に沿ってオーナーが配架方法に意識を向けることで、その周囲のしつらえに影響を与えていた。

（１）一般的な机や椅子：多くの施設形態において、従来より机や椅子をしつらえとして擁しているため、マイクロライブラリー利用者も同じくそれらのしつらえを活用し読書活動を行う。「飲食店」・「商業施設」・「コミュニティスペース」・「福祉施設」では、それらに加え、ゆったりとした 1 人用のソファ・1 人用の仕切り付きテーブル・スツールソファ・ベンチソファなどを擁しており、利用者が自らしつらえを使い分けている。

（２）和室におけるしつらえ：[O-EH] では、古民家を改修した事例であるため、畳・襖・障子・縁側といった書院造のしつらえや普段の生活におけるしつらえを読書活動の場におけるしつらえとして利用しているため、生活の場と読書の場が重複していた。それらに加え、オーナーの嗜好性により、幼児のスケールに合わせた椅子やローテーブルがしつらえてある。[H-KO] においても、飲食スペースに座敷がしつらえてあり同じような活動が見られた。

（３）机や椅子が無い場合：机や椅子を擁していない販売店では、「立ち読み」による読書活動が主であるが、[H-RE] では本棚の前にクッション材を小範囲で敷き、幼児が座って本を読めるスペースとしている。

机・椅子以外のしつらえについては、その施設業種に沿ったお酒やピアノ [H-AR]、おもちゃ [O-EH]、将棋盤・囲碁盤 [O-MN] などがみられ、施設形態ごとに独自の読書空間を創出していた。

利用者の読書環境を考慮したしつらえにすることで、その施設形態独自の読書空間が創出されていた。読書の場と施設の機能との混在が利用者の多様な読書環境を触発していた。

4. マイクロライブラリーの空間利用実態（図 5）

マイクロライブラリーの利用者属性は多岐にわたっており、「買い物ついでに利用」・「施設利用ついでに利用」・「通りすがりに利用」・「マイクロライブラリーをメインの目的として利用」・「待ち合わせとして利用」など、利用形態も様々である。利用特性として、㈠利用者とオーナーの専門性に関して、㈡利用者と建物機能に関して、㈢マイクロライブラリー利用者と施設利用者との関係性についての３つが見られた。

㈠利用者とオーナーの専門性

[H-HO] では、「飲食をしながら読書をする」という従来の図書館では見られない行為が実践されていた。さらに、利用者とオーナーが本の内容について会話をし、おすすめの商品などを聞き出しながら読書活動・購買をする行為が見られた。[H-RE] では、業種に沿った専門書と商品を相互に行き来しながら購買する行為が見られた。親が商品を選んでいる際に、子は本棚の前に敷かれたクッション材の上で子ども向けの本を読んでいた。これらのように本に触発された、新しい「売り方買い方」が行われていた。

㈡利用者と建物機能

[O-EH] では、「畳に寝転がって本を読む」や「縁側に座って本を読む」といった古民家のしつらえを活用した自由な読書活動が見られた。オーナーが用意した子ども向けのしつらえである机や椅子を活用し、配備された絵本を読み聞かせるといった読書活動も行われていた。この事例では、オーナーの生活の場と読書の場が重なっており、利用者とオーナーが一緒におやつを食べるなどの行為も見られた。

㈢マイクロライブラリー利用者と施設利用者

[O-TM]・[O-EB]・[O-MN] では、本のある空間と施設機能のある空間が分離しているため、オーナーとの専門的な関わりはあまり見られなかった。一方で、読書活動をしていない人とマイクロライブラリー利用者の２種の利用者属性が同じ空間に存在する。そのため、読書活動をしていない人の「電話の声」・「大きな声での会話」・「音楽」などに触発され、読書活動をしている人も同様の行為に対して抵抗がなくなり、賑やかな読書環境が創出されていた。

マイクロライブラリーにある施設機能に沿ったしつらえを利用者の属性や嗜好に合わせて活用し、自由で多様な読書活動を行っていた。

5. まとめ

マイクロライブラリーでは、業種に関連した専門書の配備があることで、新たな「売り方買い方」を生み出すとともに、小規模ながら読書を考慮した細やかなしつらえがあることで、それらが利用者の自由で多様な過ごし方を許容した読書環境を触発していた。マイ

クロライブラリーのように、従来の公共図書館には見られない、独特の公私融合の場を創出する必要性が今後の「本のある空間」として求められている。マイクロライブラリーは堅苦しいイメージとしての公共図書館を脱出する手掛かりとなる。

参考文献

—久繁哲之介（2016）「まちづくりに、図書館が果たす役割を、シェアリングエコノミーから考える　～図書館で、まちを創る「NPO 情報ステーション」を事例に　その１～」,Urban Study 63 巻　12 月　p83-107

—三森弘（2017）「民間図書館の開設経緯からみたソーシャル・キャピタルの形成とその要因 - 住民の図書館活動に見る地域ストックの形成に関する研究 - 」, 日本建築学会計画系論文集　第 82 巻 . 732 号 p393-402

—古矢千晶，鈴木毅（2015）「まちライブラリーの相互交流とネットワーク形成に関する研究」, 人間・環境学会誌　18 巻 1 号 p30

—鈴木毅（2015）「まちの資源としてのマイクロライブラリーの実態と可能性に関する研究」, 人間・環境学会誌　18 巻 1 号 p30

—礒井純充（2016）「まちライブラリーを活用した大学、企業における市民参加型コミュニティの場づくり研究」, 広報研究　第 21 号

名称 / 施設形態 / 本を設置する媒体 / 冊数 / 主な書籍		
H-CA/ 飲食店 / 本棚増設型 /156 冊 / 混合	H-AR/ 飲食店 / 本棚増設型 /182 冊 / 音楽	H-HO/ 飲食店 / 本棚増設型 /930 冊 / 小説
H-KO/ 飲食店 / 空きスペース活用型 /17 冊 / 歴史	O-MN/ 福祉施設 / 本棚増設型 /740 冊 / 混合	O-EB/ コミュニティスペース / 本棚増設型 /4297 冊 / 混合
H-RE/ 販売店 / 本棚増設型 /153 冊 / チョコレート	O-EH/ 休眠賃家 / 本棚増設型 /200 冊 / 絵本	O-TM/ 商業施設 / 本棚増設型 /14000 冊 / 混合

図 4　施設内のしつらえ

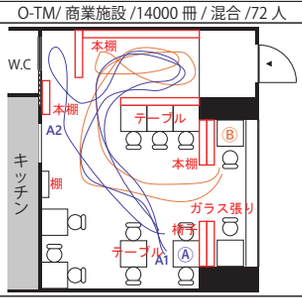
名称 / 施設形態 / 冊数 / 主な書籍 / 観察時の利用人数

H-HO/ 飲食店 /930 冊 / 小説 /4 人	H-RE/ 販売店 /153 冊 / チョコレート /1 人	O-EH/ 休眠賃家 /200 冊 / 絵本 /6 人
O-TM/ 商業施設 /14000 冊 / 混合 /72 人	O-MN/ 福祉施設 /740 冊 / 混合 /36 人	O-EB/ コミュニティスペース /4297 冊 / 混合 /52 人

対象：性別 / 年代 / 人数 / 利用時間（分）

時間（分）　活動内容

H-HO



A：男性 / アダルト / 1 人 /82 分

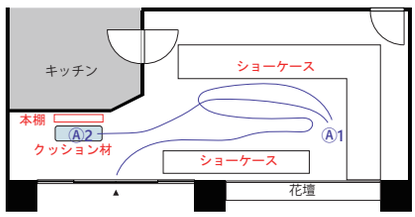
00　注文をし、2 冊手に取り席に着く。A1
46　もう一度本棚を見て回り、席に着く。A2

B：女性 / アダルト / 1 人 /113 分

雨宿りで立ち寄る。
00　注文をし、4 冊選び、席に戻る。
24　ケーキを食べながら本を読む。

・・本（棚）　N　0　4[m]

H-RE

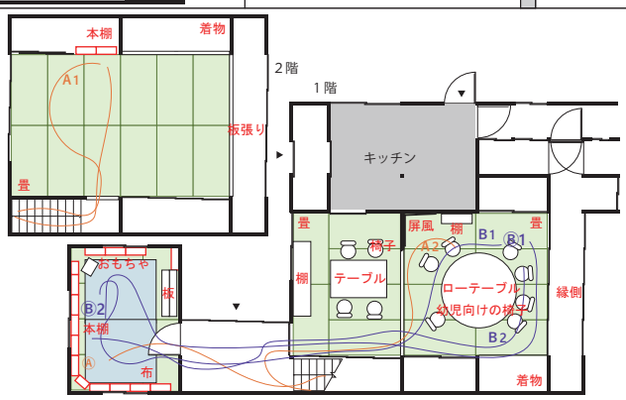


A：男性 / ヤング / 1 人 /18 分

00　母親と来店。一緒に商品を選ぶ。A1
06　母親が引き続き商品を選んでいる際に、1 人で本を読む。（座り込む）A 2
12　母親と一緒に本を読む。。

・・本（棚）　N　0　4[m]

O-EH



A：女性 / 親子 / 2 人 /95 分

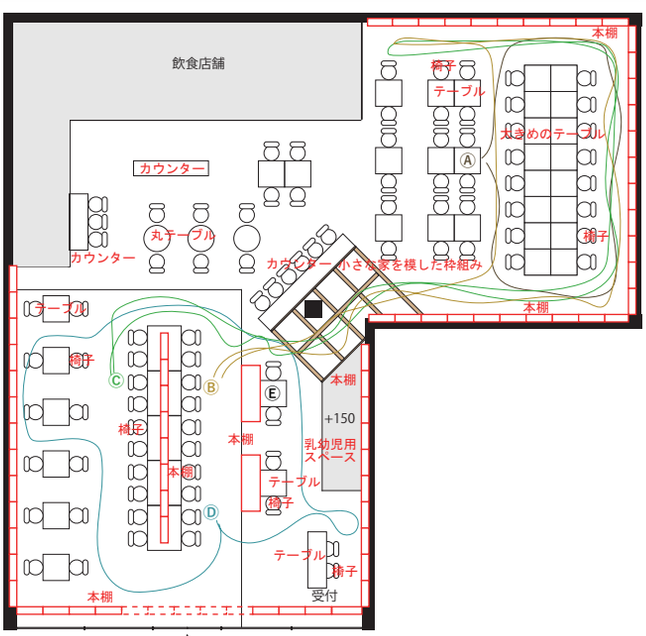
00　部屋の隅に座って母親と一緒に絵本を探す。気に入った本を母親に読んでもらう。
28　2 階にあがり、2 階にある絵本を寝転がって読む。A 1 .
58　居間で焼き芋を食べながら、オーナーと好きな絵本についてお話。A 2

B：男女 / 親子 / 4 人 /103 分

00　父親は部屋を見て回りながらオーナーと古民家について話す。母親と子どもたちは本のある部屋に行き、絵本を探す。
06　母親と子どもたちは他の利用者の読み聞かせを一緒に聞く。
12　父親が居間に座って本を読む。B1
15　下の子がおもちゃのキッチンでおままごとを始める。上の子は母親と絵本を読む。B2
21　下の子が居間にいる父親のほうへ行く。B 1
28　上の子が母親とおもちゃで遊び始める。
32　下の子が戻ってきてキッチンのおもちゃでパンを焼き、他の利用者に配る。
49　家族全員で居間で焼き芋を食べながら、オーナーと好きな絵本についてお話。B 2

・・本（棚）　N　0　4[m]

O-TM



A：男女 / ヤング・アダルト / 4 人 /42 分

00　家族で Café を利用。
14　本棚から本をとり、読む。
25　本について会話をしながら、もう一冊取りに行く。

B：男女 / アダルト / 2 人 /121 分

00　ドリンクを注文し、併設店舗近くのカウンター席に着席。以前来た時の本の話をし、本を探しに行く。
06　本を 4 冊程度選び着席。

C：女性 / アダルト / 1 人 /60 分

00　入店後、じっくりと店内で本を見て回る。
07　本 6 冊を選び、併設店舗近くのカウンター席に座る。「毛細血管」を熟読。
45　携帯電話で電話を始める。
49　電話終了後、座ったままで上半身ストレッチをする。
59　本をカウンター席の本棚に戻す。

D：男性 / ヤング / 1 人 /25 分

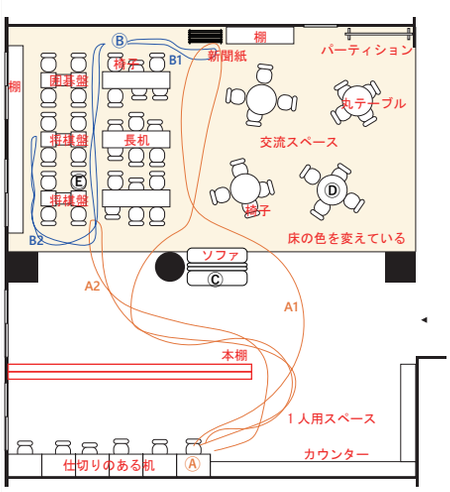
00　入り口付近のカウンター席に座り、カウンター席の本棚に置いてある本を何冊か手にとり、パラパラと眺める。
23　父親が来て、2 人で会話する。

E：女性 / アダルト / 6 人 /46 分

00　読み聞かせのイベントに参加していた子育て世代の親。乳幼児用のスペースで読み聞かせを行う。
16　読み聞かせのイベント終了後、乳幼児用スペース付近の 2 人席に近くの椅子を集めて座り、ママ友同士で世間話。
22　イベントで読み聞かせをしていた人が読み聞かせのレクチャーを実施。
46　使用した机と椅子をもとに戻し、店を出る。

・・本（棚）　N　0　4[m]

O-MN



A：男性 / シニア / 1 人 /73 分

00　新聞を手に取り、仕切りのある 1 人席に座る。B1
42　将棋をしていた人たちと合流する。B2
56　もとの席に戻り、新聞を読む。

B：男性 / シニア / 1 人 /58 分

00　新聞を取り、席に座って読む。F1
10　近くの席に座っている人と世間話。
32　将棋を見に行く。F2

C：女性 / シニア / 2 人 /15 分

00　他のフロアを利用後、本棚の雑誌を手にとり、ソファに座り 2 人で世間話をする。

D：男女 / ヤング / 6 人 /34 分

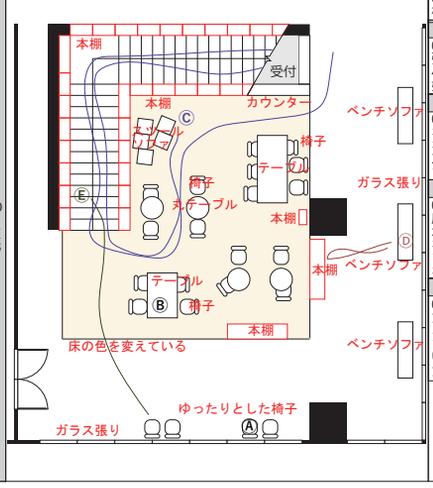
00　近くの椅子を持ってきて円卓に座り、ジュースを飲みながら、全員でカードゲームをする。
12　騒がしくなりすぎないように自分たちで注意しあう。
28　音楽を流して、にぎやかに話す。

E：男性 / シニア / 5 人 /78 分

00　将棋をする。参加していない人がたまにヤジを飛ばす。
14　1 人がお酒を飲みだす。

・・本（棚）　N　0　4[m]

O-EB



A：女性 / アダルト / 1 人 /58 分

00　窓側のゆったりとした 1 人用の椅子に座り、持ってきた本を読む。

B：女性 / ヤング / 2 人 /132 分

00　お菓子をつまみながら話し、勉強する。
45　イヤホンでそれぞれ音楽を聴き始める。

C：男女 / 家族 / 3 人 /34 分

00　1 階フロアの本や階段付近の本を吟味し、家族内で読みたい本の話をする。
25　階段から本を選び、父親がスツールソファに座り本を読む。

D：女性 / 親子 / 2 人 /35 分

00　テーブル無しのベンチソファに座り、子どもがベンチソファの前の本棚から本を選び母親に読み聞かせをしてもらう。
12　目の前の本棚を往復していい本を探す。

E：男女 / アダルト / 2 人 /23 分

00　階段の本を見て回り、以前読んだ本でおすすめ本などを立ち話する。
11　興味のあった本を見つけ借りたいと思うが借り方が分からなかったため、近くの利用者に聞く。

・・本（棚）　N　0　4[m]

図 5　観察調査まとめ